

東京都医師会
第33回「医療とICTシンポジウム」

**患者の立場で考える
データヘルスと望ましい将来像**

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子

ささえあい医療人権センターCOMLとは

- 1990年スタート、2002年NPO法人化、
2016年7月1日認定NPO法人認証
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す
一人ひとりが「いのちの主人公」
「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働 ⇒活動の目的
より良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

COMLの活動 (2022年2月末現在)



講演: 4303回
各種検討会・委員会

相談: 65144件



SP活動: 1701回 (OSCE497回)

病院探検隊: 99回



患者塾: 245回



患者と医療者のコミュニケーション講座: 98回 (出前16回)

◆基礎コース: 医療をささえる市民養成講座 (2009年度～13期)

◆アドバンスコース: 医療関係会議の一般委員養成講座・委員バンク



目標にしたい将来像

自分の生涯の健康・医療情報は、
一人ひとりが自己
管理する。

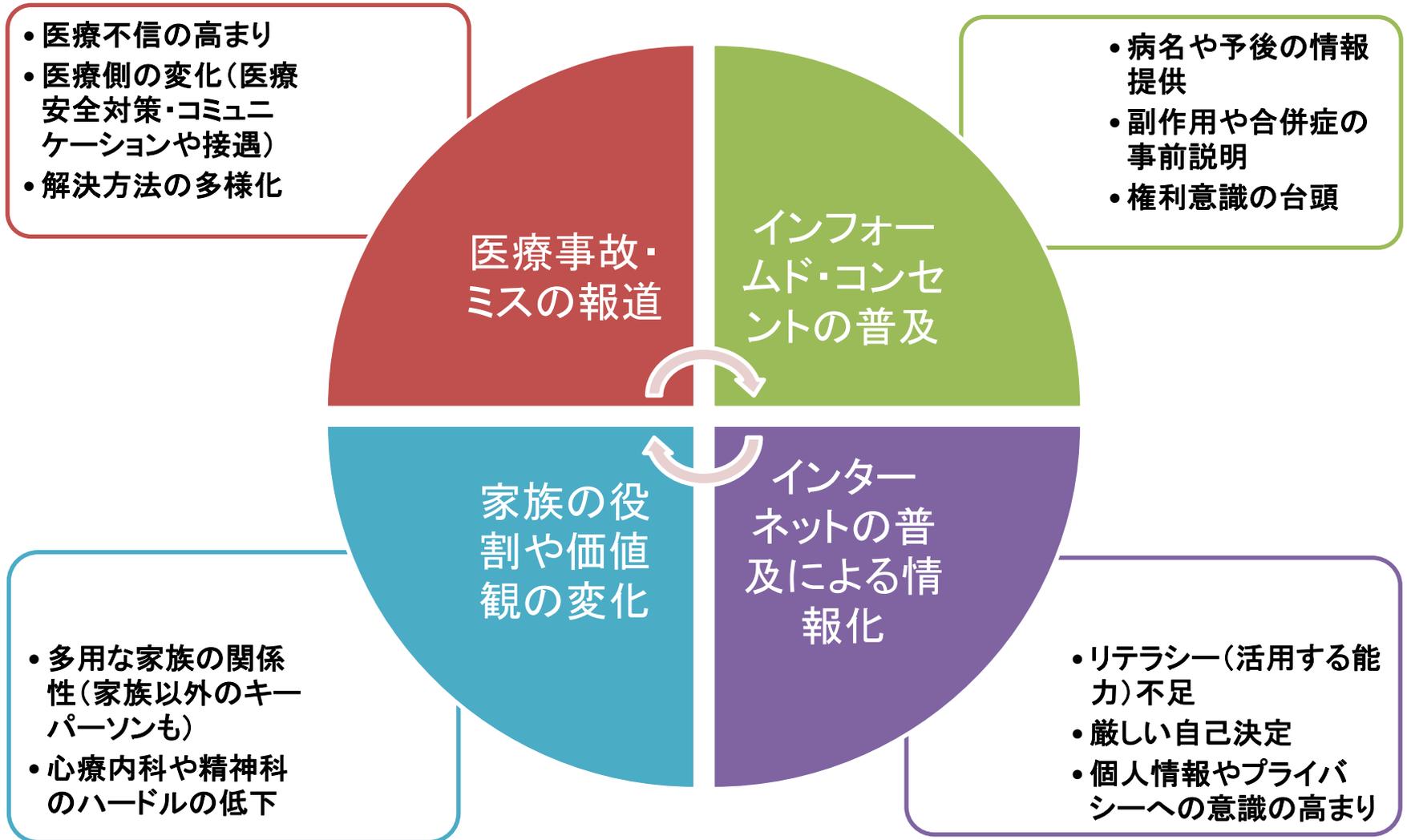
情報が閉ざされていた時代に 患者経験をして

病名、病状、検査結果、画像、病理
結果・・・懇願しても教えてもらえない

他人である医療者が知っている私
の情報を本人が知ることができない

プライバシーの侵害ではないか

30年の相談内容の変化の背景



最近の相談者の意識と傾向

姿勢の二極化

徹底追及

⇔遠慮・我慢

医療者の苦情

メディアの報道
内容に左右されがち

「相談」より「判断」を求める
相談ナビ

コミュニケーションに悩む
回帰現象

患者の課題①

「理解できていない」

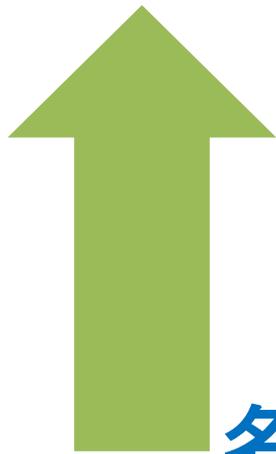
- 漠然と「わからない」「何がわからないかわからない」
- 専門用語や治療効果など前提となる基礎知識がない

- 理解できない理由の分析はできない
- 結果には不満足

- 「理解できていない」→「そんな説明聞いていない」
- 納得いかない結果は不信感に

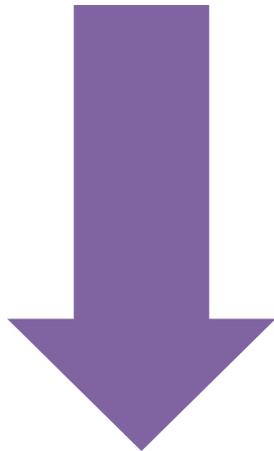
患者の課題②

患者と医療者の思いのズレ(その2)

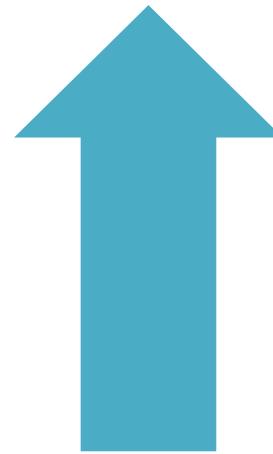


診察券に
書いてあ
るのに

名前の確認

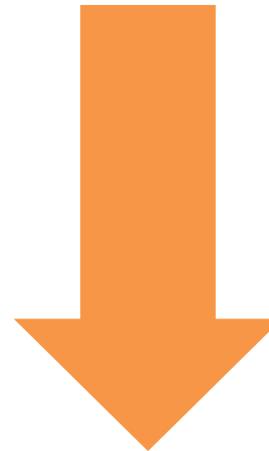


医療安全
の一環



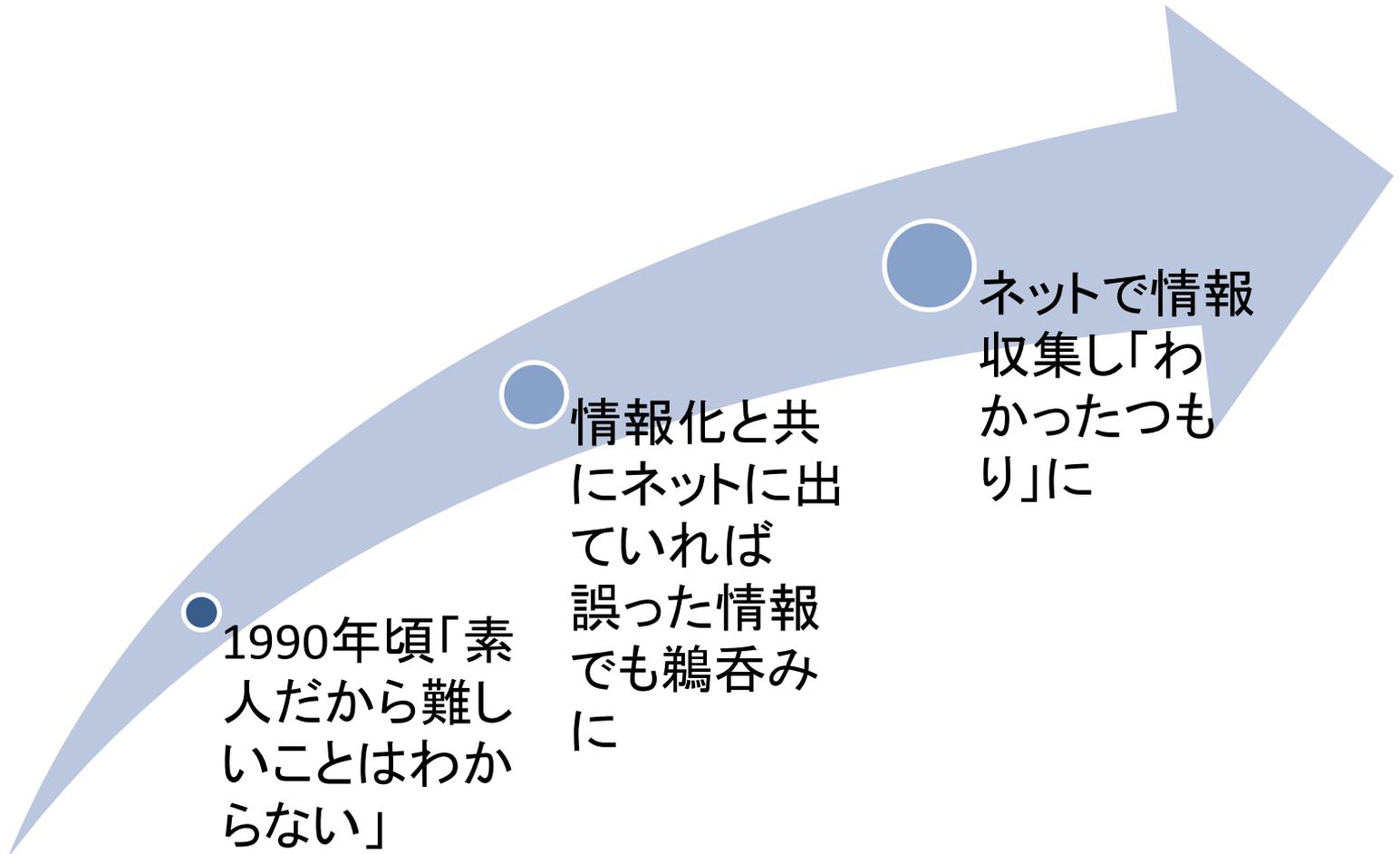
入院中な
のに

転倒・転落



起こりがち

患者の課題③ 情報のリテラシー



1990年頃「素人だから難しいことはわからない」

情報化と共にネットに出ている情報でも鵜呑みに

ネットで情報収集し「わかったつもり」に

課題の克服を阻害している要因

医療の制度、しくみ、情報、受診の仕方を学ぶ場がない

コミュニケーションが苦手な人が多い

日常の上級編・応用編が医療現場でのコミュニケーション

自己決定、自己主張を避ける傾向

インフォームド・コンセントの成熟



これからの患者・医療者関係



子どもへの教育が将来を築く

情報のリテラシーを高める

ヘルスデータは自分の大切な情報だと子どものころから意識づける

意識改革

ヘルスデータを自己管理し医療機関と共有する

自分で考え、自分で決める力をつける